

市民レポーターの皆さんが、市内のさまざまな場所に出かけて、市民ならではの視点から小牧の魅力や身近な話題について取材した様子を、毎月15日号で紹介していくコーナーです!

REPORT 158

たわわに実った稲を一晚ですべて踏み荒らし、食い荒らしてしまうイノシシ。小牧の特産品・桃やブドウが熟する頃に畑に入り、食べ散らかす野生の動物。このような状況を改善するために、日々、活動するのが「小牧市猟友会」の皆さんです。会長の野々川和明さんに話を聞いてきました。

小牧に猟友会があるなんて知らない人も多いのではないだろうか。本庄から東側、山手に向かった大山区、野口区を中心に、週2回猟友会は活動しています。

会長の野々川さんは、28才



市の猟友会会長で、愛知県猟友会の副会長を務める野々川和明さん

の頃、知り合いに誘われ猟友会の会員に。当時は、ウサギ・イノシシ・カモ・キジ・ハトなどの狩猟が主で、食用などで狩猟を行っていました。

時代は変わり、野生動物が田畑を荒らす、民家に侵入するなどの被害が増え、鳥獣被害の対策としての活動がどんどん増えてきました。また、銃への規制がどんどん厳しくなり、銃を持てる(狩猟免許を取得できる)人が少なくなる一方、鳥獣被害の数が増え、猟友会への依頼がどんどん増えてきました。

最近では、昨年発生した豚熱の調査などにも協力しています。わなを仕

掛け、イノシシがかかっているのを見つけたら、市の農政課と一緒に捕獲。血液を採取して、岡崎にある県の中央家畜保健衛生所へ提出する作業への協力です。今のところ小牧では豚熱は出ていません。

現在、会員の中で経験10年以上のベテラン10人が市の鳥獣被害防止対策の駆除員として活動をしています。平成4年には180人ほどいた会員も、現在は20人と減少し、高齢化も進んでいます。若手の育成が課題だと野々川さんは話します。

狩猟にはそれぞれ免許が必要で、第1種が銃、第2種が空気銃、次に罠猟・網猟があります。3年に1度の銃器の所持許可の更新には、医師の診断書や職歴・住所などを記入する経歴書、同居親族書などが必要となり、チェックも厳しくなっています。

県営名古屋空港にイノシシ出没

5年前、名古屋空港からの要請でイノシシの駆

除を頼まれました。え？どうやってイノシシは空港まで？疑問が沸きます。大山川を南に下り、広い空港の滑走路の土を荒らしたようです(大山川は、空港の滑走路の下を流れています)。

カラスの数も徐々に減ってきているとの報告があり、さまざまな野生動物からの被害が減っている状況や農家さんたちが喜んでくださるのが何よりの励みです。

稲穂の実がなる前にイノシシが食い荒らさないよう、この秋も山での活動が期待されます。

編集後記



小牧山のカラスは西の方岩倉方面から来るカラス。小牧の東側の山のカラスは昔から生息するカラスだそうです。

※小牧市猟友会に関心のある人は、左記、問合せ先にご連絡ください。

今回の取材先

小牧市猟友会

問合せ：市農政課
電話：76・1131



市東部の緑豊かな景色

～市民の安全を守る 緑の下の力持ち～ 小牧市猟友会

サボテンを栽培する 創業90年の老舗

サボテンと聞くと隣の春日井市を思い浮かべる人も多いはずですが、実は小牧のここ・実生園がサボテンの発祥地だとか。全国から愛好家がやってくるという実生園の倉知秀行さんに話を聞いてきました。



可愛い！面白い！サボテンがいっぱい



サボテンのことなら倉知さんの右に出る者はいないというほど、サボテンを知り尽くす実生園2代目社長、サボテンの良さをPRします。

創業90年。2代目の倉知秀行さんと奥さん、3代目の息子さんとともに家族で経営するサボテンの店。50坪の大きなビニールハウス4つの中に、たくさんのサボテンや多肉植物を栽培しています。以前は3500種ほどあったそうですが、ワシントン条約後の規制で減少して



可愛らしい花を咲かせる「星月夜」というサボテン

サボテンを育てる

現在では、2000種ほどになったそうです。サボテンといえば小牧市のイメージがありませんが、倉知さんいわく、実はこちらが発祥とのこと。以前は全国から住込みで研修生を受け入れていて、40年余で150人程の卒業生がいます。現在、研修施設はありませんが、週に一度、生徒が通ってきて実習や座学などの研修が行なわれています。

栽培方法は、種をとって時く「実生」（これが店の名前にもなっています）と、芽をかって挿し木する方法



愛知万博の時のメキシコ館の入口。レイアウトを企画し、材料を調達。植栽まですべて担当しました。とても大変だったけれど、最高の思い出です。

があり。実生は難しく、撒いてから商品化できるまでに3年はかかります。日本で初めてサボテン用の肥料も製造し、その材料にもこだわっています。

インターネット販売、東谷山フルーツパーク、日本ライン花木センターのブラス販売などもされています。お手頃な価格のものから、中には、中国やタイなどのバイヤーが300万から400万という高値で取引する貴重な種類もあります。直接購入もでき、全国から買い付けにいられています。（事前に電話で予約が必要です）

愛知万博でも活躍

仕事の上で一番の思い出は、愛知万博でメキシコ館に、メキシコ原産のサボテン、250種類を提供したことだそうです。セメント

や砂を運んで準備をし、開催中も水やりや弱ったサボテンの交換など、世話をしました。

サボテンの魅力をお聞きすると、「サボテンは何億年も前から、木が徐々に進化して、雨が降らなくても生息できるように変化してとげができ、とげ座という部位が空気中の水蒸気をホルモンとして吸収することができるようになった。咲く花も美しく、神秘的な魅力がある」と話してくれました。

編集後記



まめうそ

珍しい葉のものや、小ぶりの可愛いものも多く、インテリアとして飾ると素敵だな、と思いました。一般の人が買いに来るのも大歓迎と言っていたので、みなさんにも小牧の特産としてもっと身近に知ってもらえるといいな、と思いました。

実生園

住所：久保67
電話：76・2086
営業時間：午前9時～午後5時
休み：不定休
HP：http://www.misseyuen.com

今回の取材先

